

10年間の歩み

〈平成 26 年度から令和 5 年度〉

愛知県陶器瓦工業組合 90 周年

三州瓦の90年

〈昭和8年から平成25年度の歩み〉

我が国の1400有余年におよぶ瓦の歴史は日本の文化と共に歩み、日本建築美の象徴として日本人の心に刻み込まれてきました。中でも一大産地として確かな足跡を残してきた三州瓦。

その三州瓦産地の確かな結束を支えてきた愛知県陶器瓦工業組合。いま90年の時を刻みます。

昭和8年	■ 愛知県赤瓦工業組合設立。初代理事長に阿部庄司氏が就任 ■ 三州瓦工業組合設立	昭和49年	■ 全国陶器瓦工業組合連合会(全陶連)設立
昭和14年	■ 榊原定次郎氏 理事長就任(第2代)	昭和53年	■ 石川國太郎氏 理事長就任(第9代)
昭和16年	■ 太平洋戦争の勃発	昭和55年	■ 黒田浩三氏 理事長就任(第10代) ■ JIS工場連盟9社で発足
昭和19年	■ 統制販売のため当組合と三州瓦工業組合が統合され愛知県粘土瓦統制組合設立 ■ 三河大地震発生	昭和56年	■ 第1回農賞を開催 ■ 第1回愛知県三河の窯業展を開催
昭和20年	■ 太平洋戦争終戦	昭和57年	■ 「設計士のための屋根マニュアル」を制作
昭和22年	■ 協同組合法改正により、愛知県赤瓦工業協同組合設立 ■ 国内初トンネル窯が福井県で築炉	昭和58年	■ 創立50周年記念式典、地元で三河の窯業展を開催 ■ 住宅展示場モデル住宅補助金交付制度を開始
昭和25年	■ 深谷徳二氏 理事長就任(第3代)	昭和59年	■ 野口安朗氏 理事長就任(第11代) ■ JIS改正。S形瓦の追加
昭和26年	■ 三州でもトンネル窯を採用	昭和60年	■ 毎月8日は「屋根の日」を制定 ■ 共同リサイクル施設「シャモット工場」(現 第1工場)竣工
昭和27年	■ 黒田眞一氏 理事長就任(第4代)	昭和61年	■ 全陶連・全瓦連で風洞実験を実施
昭和29年	■ JISが制定。瓦もA5208で規程	昭和62年	■ CA会発足 ■ 瓦1400年全国大会(東京池袋)を開催
昭和30年	■ 真空土練機の共同施設を設置	昭和63年	■ 都築忠知氏 理事長就任(第12代)
昭和33年	■ 井野一郎氏 理事長就任(第5代) ■ 赤瓦会館を建設	平成元年	■ シャモット工場に粗碎機を導入。 「ピット」の製造、販売を開始 ■ 「屋根マニュアル・瓦」(改訂新版)を制作
昭和34年	■ 初のテレビCMを放映 ■ 伊勢湾台風の襲来	平成2年	■ 宮田千俊氏 理事長就任(第13代) ■ 特別PR合同会議を発足、大型PRを展開 ■ 原材料価格調査を開始
昭和37年	■ 愛知県くすり瓦工業協同組合設立		
昭和38年	■ 尾崎延次氏 理事長就任(第6代)		
昭和39年	■ 赤瓦・くすり瓦工業組合連合会設立		
昭和41年	■ 都築岩太郎氏 理事長就任(第7代) ■ 愛知県陶器瓦工業組合設立		
昭和46年	■ 三州瓦マークの作成		
昭和47年	■ 岡部利雄氏 理事長就任(第8代) ■ 全日本瓦工事業連盟(全瓦連)設立		
昭和48年	■ 創立40周年記念式典		

平成3年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「植木等」をキャラクターに起用して、テレビCM放映 ■ 窯業技術センター三河分場に漏水試験機を設置 	平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 黒田美憲氏 理事長就任(第16代) ■ 全陶連・全瓦連で実大耐震実験を実施 ■ 三河の窯業展を東京で開催 ■ 中国市場の視察を実施
平成4年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高浜市でかわら美術館建築着工 	平成17年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 愛知万博会場、セントレアへ瓦モニュメントを設置 ■ 三州瓦マスコットキャラクター「サンちゃん」誕生
平成5年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 創立60周年記念式典 ■ 新シャモット工場(現 第2工場)完成 ■ C A 研究所を設立 	平成18年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「三州瓦」地域ブランドに認定 ■ 粘土の無鉛化を達成
平成6年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 鶴見榮氏 理事長就任(第14代) ■ 阪神淡路大震災発生 ■ 全陶連創立20周年記念式典開催 	平成19年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 杉浦勝典氏 理事長就任(第17代) ■ 三州セラミック路床材があいくる材に認定 ■ 「三州瓦」が地域資源に認定
平成7年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多度津で実大耐震実験を実施 ■ 組合事務所と瓦屋根訓練校が竣工 ■ 組合で「プラムネ」を開発販売 ■ 地区別懇談会を開催 	平成20年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ ビット製造ラインに篩設備を導入
平成8年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ JIS改正で、F形が追加 ■ 「星野仙一」をCMキャラクターに採用し、テレビCMを放送 	平成21年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「三州瓦シャモット」が地域資源に認定 ■ 全面改定した「設計士のための三州瓦マニュアル」を発行（新版）
平成10年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 三州瓦業界でISO取得が始まる 	平成22年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東日本大震災が発生 ■ 瓦のLCCO₂の算定を実施 ■ JAPANブランド事業で上海展示会に出演
平成11年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 設計士向けのマニュアル「よくわかる瓦屋根設計」を発行(新版) ■ CA研版から、組合ホームページを刷新する 	平成23年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ JAPANブランド事業でシンガポール展示会に出演 ■ 第15回図賞を実施。学生部門を新設
平成12年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 横山善久氏 理事長就任(第15代) ■ 改正建築基準法により仕様規定から性能規定へ ■ 三河窯業試験場に引き上げ試験機が導入 	平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 野口安廣氏 理事長に就任(第18代) ■ 東日本大震災被災地調査を実施 ■ 仙台駅で三州瓦展示会を開催
平成13年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 瓦屋根標準設計・施工ガイドラインの発行 ■ 高浜・碧南で三河の窯業展を開催 	平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 復興住宅に対する補助金支援を開始 ■ 岩手、宮城、福島で三州瓦セミナーを実施 ■ 災害公営住宅への瓦採用PRを展開 ■ 創立80周年記念式典
平成14年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 三河の窯業展を単独開催から住宅フェア内での開催へ転換する ■ シャモットカタログを作成 		
平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 窯業建材推進議員連盟を設立 ■ 瓦相談室をホームページに開設 ■ 創立70周年記念式典 		

平成 26 年度（2014）の歩み <H26.4.1～H27.3.31>

■ガイドライン工法普及のため三州瓦建築セミナーを実施

・全瓦連のブロックに合わせ全国の主要都市 8 会場で、建築士・住宅建築関係者を対象に「現代建築と瓦 建築セミナー」を開催した。災害に強いガイドライン工法と耐久性の高さを PR し『三州瓦』の需要喚起を目的に平成 26 年度から 2 年に亘り実施した。初年度は名古屋、仙台会場。次年度は金沢、大阪、広島、福岡、松山、東京会場で実施し全国で 588 名が受講。ガイドライン工法の普及促進に努めた。



■復興住宅に対する補助金支援、2 年目は 7 月で予算上限に

- 昨年に続き、いわて県民住宅祭 2014 へ岩手県瓦工事業組合と共同出店
- 昨年に続き、ミヤギテレビでスポット CM 放送を実施
- 高浜市観光案内所（鬼ハウス）へミニ屋根 5 台を寄贈
- J 形マニュアルを作成（瓦屋根標準施工要領書 JKY-2014）
- 第 1 回小屋裏換気測定と報告会の開催（名城大学）
- グラウンドの排水層としてシャモット利用を提案

・名古屋工業大学と共に進めてきたシャモットの利活用に関し、グラウンドの排水層としての活用を碧南市に依頼した。市内 2 カ所（沢渡公園グラウンド、道場山公園グラウンド）での試験施工の後、碧南市羽久手グラウンドの改修工事が実施された。施工後、グラウンドの水捌けは大きく改善されシャモット排水層の効果が実証された。その後、東海市大池公園遊技場でもシャモットが採用された。



- シャモットを用いた防草材実験を実施（第 1 段、名古屋工業大学）
- シャモットを使用したヒートアイランド抑制材の開発（名古屋工業大学）
- 名古屋工業大学とシャモット利用研究会を立上げ（公益財団法人 科学技術交流財団。平成 26～27 年度事業）
- 高校新卒者の就職採用、全て愛知県内高校出身となる。
- 杉浦勝典氏が旭日小綬章を受章（H26.11.3）

平成 27 年度（2015）の歩み 〈H27.4.1～H28.3.31〉

- 瓦離れ対策及び地元対策・瓦信頼回復 PR として地元展示会に出展
 - ・三河総合住宅展へ出展、高浜市鬼みちまつりに出展。
- 復興住宅に対する補助金支援(3年目)を実施
- 昨年に続き、ミヤギテレビでスポット CM 放送を実施
 - ・パブリで野口理事長（全陶連）、薄井理事長（全瓦連）が TV 出演
- 三州瓦設計補助金の交付を実施
 - ・愛知県建築士事務所協会と協定し、三州瓦を使用した物件に補助金を交付
- 三州瓦建築セミナーの実施（大阪、広島、福岡、金沢、松山、東京会場）
 - ・大阪（KENTEN）、東京（建築建材展 2016）は展示会に合わせてセミナーを開催。
- ラジオ CM 事業を展開
 - ・ラジオ CM を制作し、地元並びに全国で CM 放送を展開
 - ・Zip-FM にて 8 月 8 日「瓦 DAY」企画を実施。
- 三州瓦活性化キャッチコピー「一富士二鷹三州瓦」の活用開始
 - ・高浜商工会が制作した三州瓦キャッチフレーズロゴ「一富士二鷹三州瓦」の著作権管理業務を業界団体に委託したいとのことから組合の PR キャッチコピーとして活用を開始した。三州瓦を取り扱うお客様各位にも希望があれば使用を許可している。
- 高浜市新庁舎への瓦寄贈を推進
- 鬼瓦の耐震施工の研究
- 国土交通省の「港湾・空港等整備におけるリサイクルガイドライン」に破碎瓦（シャモット）が新規追加
- シャモットを用いた L 型擁壁の裏込材等実験を組合敷地内で実施（名古屋工業大学）
- シャモットが碧南市 2 号地グラウンドの駐車場に整地材として利用された。
- 高度化事業によるシャモット工場の設備更新（第 2 工場。平成 27～28 年度事業）
 - ・シャモット工場は、昭和 60 年に第 1 工場、平成 5 年に第 2 工場を建設。20 年以上が経過したため、設備の大規模なオーバーホールや省力化を図るため国の高度化事業を活用して改修工事を行った。これにより、生産設備の効率化が図られ、契約電力を 120kw 以上下げるなど省力化を実現した。

平成 28 年度（2016）の歩み 〈H28.4.1～H29.3.31〉

- 瓦離れ対策及び地元対策・瓦信頼回復 PR として地元展示会に出演
 - ・三河総合住宅展、高浜市鬼みちまつり、建築士事務所協会キャンペーン（オアシス 21）、あいち木づかいの家（愛知県ブースに展示協力）、岡信高浜支店に耐震モデルを展示
- 昨年に続き、三州瓦設計補助を実施
- B-1 グランプリスペシャル in 東京・臨海副都心大会での瓦展示協力
- SNS 情報発信事業を開始、スマートフォン広告を実施
- 「設計士のための三州瓦マニュアル」改訂 第二版
- 愛知県三河の窯業展（忍者屋敷）が盛況。ブース訪問（アンケート）は過去最高

・第 36 回愛知県三河の窯業展（東京ビッグサイト 建築建材展 2017 内）を開催した。展示ブースを忍者屋敷風にデザインし、忍者の衣装を着たイベントコンパニオンや大道芸を披露した。ブースの訪問者を測るアンケート数は過去最高を記録した。



- 高浜市役所新庁舎への瓦寄贈
- 圧力箱方式と送風散水方式に関する試験の実施（三河窯業試験場、一般社団法人 建材試験センター）
- 熊本地震調査の実施
- J 形マニュアルダイジェスト版の作成

・瓦屋根標準設計・施工ガイドラインに準拠した J 形マニュアル（JKY-2014）を一昨年作成したが、更に全国の施工技術の均質化を図るため、J 形マニュアルダイジェスト版を 69,000 部作成し、全国の瓦屋根工事業者等へ提供した。これにより瓦屋根の安全性を一層高めることになった。



- 高度化事業によるシャモット工場の設備更新（第 1 工場、電気設備全般）
- シャモットを用いた L 型擁壁の裏込材実験を衣浦ポートアイランドで実施（国土交通省中部地方整備局）
- シャモットを用いた埋設管の埋戻し施工実験の実施（名古屋工業大学）
- 碧南市の名鉄線跡地に整備された「碧南レールパーク」の表層材（脱色アスファルト舗装）にシャモットが利用された。
- 平成 29 年 1 月より、シャモット工場の定休日を「日曜日」から「土曜日・日曜日」に変更
 - ・工場の運営、労働環境の改善、コスト削減等を理由としてシャモット工場の土曜日の営業を取りやめることとした。

平成 29 年度（2017）の歩み （H29.4.1～H30.3.31）

- ラジオ CM 事業で「dela」を起用した新 CM を作成
 - ・ @FM 「三州瓦プレゼンツ dela ストリーム」の番組提供を開始
- 昨年に続き、三州瓦設計補助を実施
- 新建ハウジングに瓦の維持管理費の優位性記事広告を掲載
- ご当地アイドルユニット「dela」を三州瓦公式応援サポーターに任命
 - ・ 耐震シミュレーションソフト「wall stat」で検証した瓦の安全性を広く消費者に伝えるため名古屋を拠点に活躍するアイドルユニット「dela」を起用し PR 動画を制作した。更に三州瓦公式応援サポーターに任命し、一般向けのホームページを開設、また三州瓦応援ソング「一富士・二鷹・三州瓦」を制作し、dela メンバーと共に各イベント会場で披露し、三州瓦の PR に一役買った。



- 高浜小学校等整備事業への参画、利用瓦の抽選会を実施
- 「ドローンによる屋根診断」の講演会開催
- 「耐震シミュレーションソフトで検証した瓦屋根の耐震性」の講演会開催
- 破碎瓦の利活用技術資料の発刊（国土交通省中部地方整備局）
- シャモットを用いた水中投入型資材の開発（名古屋工業大学）
- シャモットを用いたインターロッキングブロック下層資材の開発（名古屋工業大学）
- シャモットデータカタログの作成

・ シャモット活用に関し、名古屋工業大学と共同研究を続け土木資材としての必要なデータを取り揃えたため、摩擦性・排水性・軽量性などを証明する「安全で環境に優しい土木資材シャモット」のデータカタログを作成した。これにより、官公庁や施工業者への説明資料が整い、技術講演会開催など今後の事業展開が期待出来る形となつた。



- 第 20 回地元高校就職担当者との新規学卒就職情報交換会の開催
- フォローアップ研修講座の開始
 - ・ 新卒 3 年未満、中途採用者の方を対象に職場でのコミュニケーション能力向上、ビジネス人間力の向上等を目的としたフォローアップ研修を開始した。

平成 30 年度（2018）の歩み 〈H30.4.1～H31.3.31〉

- CBC ラジオ企画「瓦 DAY」に dela を起用して実施
- @FM 「do!safety」交通安全キャンペーンに協賛
 - ・ dela メンバーと碧南警察署を表敬訪問する。
- メ～テレ秋まつり 2018 で PR を実施
- ジブリパークへの瓦提案のためスタジオジブリを訪問
- テレビ特別番組『ユージと dela の一戸建てマイホームスタディーズ』を制作
 - ・ 三州瓦屋根の住宅の良さを PR した教養バラエティ番組『ユージと dela の一戸建てマイホームスタディーズ』を制作した。番組にはタレントのユージと dela メンバー沢口愛華らが出演し、瓦工場や三州瓦ユーザー宅を訪問し瓦への理解を深めた。番組は愛知（メ～テレ）と福岡、熊本地区で放送し、翌年には全国展開で放送を行った。



- 緊結線、L 型金具の腐食促進試験と引張試験の実施
- シャモットを用いた土圧低減裏込材の実物大実験（名古屋工業大学）
- シャモットを用いた滑倒防止舗装材の実験（三河窯業試験場）
- 「シャモット技術講演会」の開催（中部地方整備局、名古屋工業大学ほか）
 - ・ 前年に制作したシャモットの技術資料を基に、国土交通省中部地方整備局港湾空港部 技術課長 田村誠氏、名古屋工業大学助教 森河由紀弘氏他を講師に招き、高浜市やきものの里かわら美術館でシャモットの技術講演会を開催した。
 - 当時は外部から多くの方が参加し、新聞社やテレビ局の取材を受けるなど反響が高く、その後のシャモット活用に繋がるものとなった。



平成 31 年/令和元年度（2019）の歩み 〈H31.4.1～R2.3.31〉

■三州瓦建築セミナーを東京で開催

・瓦屋根に対する風評被害の払拭、さらには地震、台風などの災害に強いガイドライン工法と瓦の耐久性をPRするため、設計士・住宅建築関係者を対象に「三州瓦建築セミナー」を東京国際フォーラムで開催した。

第1部は日経ホームビルダーの記者、荒川尚美氏から、屋根の不具合事例とその原因、屋根断熱と結露の発生するメカニズムに関する考察と、房総半島を襲った台風15号による瓦屋根の被害調査について報告した。

第2部は建築家の東利恵氏から「風景をつくる建築と屋根」についてご講演いただき、自分たちが風景を作り、記憶に残るような建物を設計思想として、屋根にこだわりをもって設計した星野リゾート施設の物件を紹介した。



■昨年制作のテレビ特別番組を全国展開

・サンテレビ（兵庫・大阪）、群馬テレビ（群馬・栃木）、テレビ埼玉（埼玉・東京）

■愛知県国際展示場「SKY EXPO」へ鬼瓦を寄贈

■山形県沖地震被災地へブルーシート寄贈

■新型コロナウイルス感染拡大により愛知県三河の窯業展を中止

■山形県沖地震調査、台風15号、19号調査の実施

■シャモットが「NETIS」「あいくる」など公的な評価制度に認定

・シャモットの技術データを基に国土交通省の新技術情報提供システム「NETIS（ネティス）」の登録に取り組み認定を受けた。併せて愛知県のリサイクル資材評価制度「あいくる」に『破碎瓦材』として認定を受けた。

今後のシャモットの活用が大いに期待されるものとなった



■シャモット工場のトラックスケール自動計量化と電子マニフェストの導入

■後藤誠氏を顧間に招きシャモットの拡販強化を図る。

■国交省中部地方整備局の工事としてシャモットが神野ふ頭整備の路盤材で使用された。

令和 2 年度（2020）の歩み <R2.4.1～R3.3.31>

- 横山朋久氏 理事長に就任(第 19 代)
- 三州瓦プランディングを検討
- 第 18 回賞を開催
 - ・ コロナ禍のためオンラインによる審査と表彰式
- 三州の「鬼師」と TV アニメ「鬼滅の刃」がコラボし、コラボポスターを購入
 - ・ 連日 TV で報道され、コラボグッズの販売が好調
- JASS12 改訂版の発刊
- 福島県沖地震による屋根被害調査の実施（国土技術政策総合研究所と共に）
- 「送風散水試験について」の講習会開催（一般社団法人建材試験センター）
- 高浜市内の市道植樹帯でシャモット防草材実証実験を実施
 - ・ 防草材としてシャモットを活用するため、高浜市の協力を得て高浜南中学校側の市道植樹帯にシャモット防草材実証実験を実施した。
 - ・ シャモット粒径 0-20 mm と 5-13 mm を深さなど変えて 6 種類を施工、また固化材を用いた舗装タイプ 2 種類の計 8 種類を施工した。



- シャモットを用いた L 型擁壁室内実験、L 型擁壁土圧低減実物大実験の実施（名古屋工業大学）
- 高浜市のエヌティークノ新工場の緑地帯整備に伴いシャモット 300t を利用。防草用途では過去最大規模
- 安全衛生優良事業所の表彰（15 年間無事故無災害を継続した事業所を含め表彰）
- 愛知県常滑窯業試験場に送風散水試験機が導入

・ 日本建築学会の JASS12 が改訂され、粘土瓦の水密性能評価試験が圧力箱方式から送風散水方式へ変更となった。このため業界として試験機の必要性を愛知県へ訴え、県窯業議連を通じて要望書を提出した結果、令和 3 年 2 月に送風散水試験機が愛知県常滑窯業試験場に導入された。
試験機は三州瓦業界のみならず、他屋根材の試験にも使われ屋根業界に大いに活用されている。



- 伝統建築工匠の技(本瓦葺きを含む 17 分野の技術)がユネスコ無形文化遺産に登録
- 高浜市が三州瓦シャモット利用補助金を新設
- 野口安廣氏が旭日小綬章を受章（R2.4.29）

令和 3 年度（2021）の歩み <R3.4.1～R4.3.31>

■ ブランドサイト「三州瓦」を開設

- ・2021 年 11 月 30 日、エンドユーザーに三州瓦の魅力を伝えるブランドサイト「三州瓦」を開設した。

サイトの内容は、毎月更新するスペシャルコンテンツや三州瓦の特長、商品ラインナップなど。スペシャルコンテンツでは瓦以外の三州エリア情報も掲載、「読み物」としても楽しめる内容となっている。



ブランドサイトの認知拡大・サイト誘導を図るため、開設記念プレゼントキャンペーンや Twitter 漫画家 3 名による瓦のタイアップマンガ投稿や Instagram インフルエンサーによる投稿など SNS 告知や Google バナー広告等を展開した。

■ You Tube 「にじさんじの B 級バラエティ番組 #27 瓦」に三州瓦が登場

■ 建築基準法の告示改正に合わせ「設計士のための三州瓦マニュアル」を改訂 第三版

■ 安全輸送対策（過積載防止対策）を実施

■ 2021 年改訂版 瓦屋根標準設計・施工ガイドラインの発行

- ・建築基準法の告示改正に伴い、平成 13 年に性能規定に対応するため取りまとめ発行した業界基準「瓦屋根標準設計・施工ガイドライン」の改訂に取り組んだ。20 年間にわたり蓄積された試験データは標準仕様としてまとめ、新たに標準仕様とは別に強風仕様を追加。また 1 回の引上げで強度を測る単調引き上げ試験の結果や瓦屋根の耐震・耐風診断等の情報も追加された。



■ 昨年の J 形瓦の試験に続き、F 形瓦の送風散水試験を実施（常滑窯業試験場）

■ 製品実態調査の実施（昭和 47 年～第 50 回目）

■ シャモット工場のメンテナンス契約交渉を実施

■ JA 等出荷用のシャモット 5 kg 袋を新規作成

■ 刈谷ハイウェイオアシスのスマートインターチェンジ（新設）、高浜市内の東邦ガス（配管埋め戻し材）工事にシャモットが採用された。

■ 横山朋久氏が黄綬褒章を受章（R3.11.3）

令和4年度（2022）の歩み 〈R4.4.1～R5.3.31〉

- 三州瓦ブランドイング事業を継続実施
- 三州瓦のLCCO₂の測定を実施
- マガジンハウス社「Casa BRUTUS」編集タイアップ広告を実施
 - ・三州瓦ブランドイング施策としてマガジンハウス社「Casa BRUTUS」住宅特集号(2023年1月発売号)に編集タイアップ広告を出稿した。

広告の抜き刷り版を愛知県三河の窯業展(3月東京ビッグサイト「建築・建材展2023」内)で来場者に配布した。窯業展ブースでは、軒下カフェをイメージした展示を行い、また「Casa BRUTUS」に掲載された青森県にある「SHIZUKU CAFÉ」の模型を展示し、白いF形の瓦は多くの来場者から注目を集めた。



- 瓦屋根耐震診断・改修費補助金制度の周知

・2019年の房総半島台風で住宅の瓦が飛散するなどの大きな被害が発生した事を契機として、国土交通省は令和3年度の「住宅・建築物安全ストック形成事業」で瓦屋根の耐風診断・耐風改修補助制度をスタートした。

三州瓦産地の自治体である高浜市・碧南市でも令和4年4月から瓦屋根耐風診断・改修等補助金制度が創設され、この補助制度を市民に周知するためPRチラシを作成して、高浜市・碧南市の各世帯にポスティング広告を行い、診断依頼、改修工事の実績を上げた。



- ジブリパーク開園に伴い開催された「あいち市町村フェア」に出展（愛地球博記念公園内）
- 名古屋鉄道広報誌「Wind」（2023年2月号）で三州瓦を紹介
- 福島県沖地震による屋根被害調査の実施
- 強風雨発生装置による瓦の風圧計測・飛散実験を実施した。1年目はJ形瓦の実験を実施（国立研究開発法人建築研究所・全瓦連との共同研究）
- 本葺瓦や多段積み棟の施工に資する各種試験と報告書を作成（のし15段積棟回転試験合格）
- 瓦屋根標準設計・施工ガイドラインダイジェスト版を作成
- 標準試験成績書の検索システムを新設
- 掘削土とシャモットの混合実験を実施（国立環境研究所、名古屋工業大学）
- 豊田市の乗馬クラブ（エルミオーレ三河高原乗馬場）のダートコースの改良材としてシャモットが活用された。
- 粉じん作業特別教育の受講者累計が2900名を超える。

令和5年度（2023）の歩み 〈R5.4.1～R6.3.31〉

■愛知県三河の窯業展出品協会を解散し「三州瓦ブランド推進協議会」を設立

・愛知県三河の窯業展出品協会は三州瓦、三州鬼瓦、陶土器（三河焼）、煉瓦の各団体と産地の自治体である高浜市と碧南市で構成され、昭和56年から九州地方など西日本を中心に窯業展を開催し、三河の窯業製品をPRしてきた。

近年は東京ビックサイトの「建築・建材展」に出展してきたがコロナ禍で情報のデジタル化が進み、多くの人がインターネット等で情報を得られるようになったこともあり、展示会事業を終了、窯業展出品協会を解散した。なお、引き続き高浜市と碧南市にご支援を頂き、令和5年度より新組織「三州瓦ブランド推進協議会」を設立、三州瓦の販売需要促進及び出荷量増加のため、様々な広報事業を展開して三州瓦をPRしていく事になった。



■設計事務所「パパママハウス」とのコラボ企画を実施

・注文住宅・リノベーションを中心に手掛けるパパママハウス（名古屋市）の全面協力の下、「瓦屋根の家を建ててみた！プロジェクト」を展開。実績豊富な設計事務所パパママハウスを通じて瓦の無償提供を条件に、瓦屋根の新居を建築する事となった物件（一宮市）を、設計段階より追いかけて隨時「三州瓦ブランドサイト」を通して公開し、三州瓦ブランドの認知度向上を図った。

■石川県能登地震調査の実施（国土技術政策総合研究所ほかと合同）

■強風雨発生装置による瓦の風圧計測・飛散実験を実施した。2年目はF形瓦の実験を実施（国立研究開発法人建築研究所・全瓦連との共同研究）

■シャモットを用いた法面防草材実証実験の実施

■シャモットが県の衣浦港中央ふ頭西地区整備の整地材として利用された。またジョリーパスタ高浜店、明治郵便局（安城）でもガーデニング資材として利用された。

■令和5年4月より高浜市やきものの里かわら美術館に図書館機能が加わり「高浜市やきものの里かわら美術館・図書館」となる。

■「たかはま鬼みちまつり」が昨年度の第20回をもって終了し、今年度からは三州瓦鬼師応援隊の主催で「シン鬼みち祭り」が開催されることとなる。

■鶴見哲氏が黄綬褒章を受章（R5.11.3）

役員変遷

平成26年度から令和5年度、愛知県陶器瓦工業組合役員(任期2年)の変遷。

平成26年度 2014年	平成27年度 2015年	平成28年度 2016年	平成29年度 2017年	平成30年度 2018年	令和元年度 2019年	令和2年度 2020年	令和3年度 2021年	令和4年度 2022年	令和5年度 2023年
野口安廣	野口安廣	野口安廣	野口安廣	野口安廣	野口安廣	樋山朋久	樋山朋久	樋山朋久	樋山朋久
石原順二 鶴見哲 岩月明仁	石原順二 鶴見哲 岩月明仁	石原順二 鶴見哲 岩月明仁	石原順二 鶴見哲 岩月明仁	鶴見哲 樋山朋久	鶴見哲 樋山朋久	鶴見哲 岡部誠司	鶴見哲 岡部誠司	鶴見哲 岡部誠司	鶴見哲 岡部誠司
市場広報委員会		市場広報委員会		市場広報委員会		市場広報委員会		市場広報委員会	
樋山朋久 神谷英嗣	樋山朋久 神谷英嗣	樋山朋久 神谷英嗣	樋山朋久 石原史也 (神谷英嗣H29.8まで)	岡部誠司 杉浦英行	岡部誠司 杉浦英行	杉浦英行 岩本亮真	杉浦英行 岩本亮真	杉浦英行 岩本亮真	杉浦英行 岩本亮真
技術施工委員会		技術施工委員会		総務委員会		総務委員会		総務委員会	
神谷彦二 片岡慶一郎	神谷彦二 片岡慶一郎	神谷彦二 片岡慶一郎	神谷彦二 片岡慶一郎	篠田裕重 片岡慶一郎	篠田裕重 片岡慶一郎	篠田裕重 片岡慶一郎	篠田裕重 片岡慶一郎	篠田裕重 片岡慶一郎	篠田裕重 片岡慶一郎
総務環境委員会		総務環境委員会		篠田裕重 杉浦英行	篠田裕重 杉浦英行	屋根施工担当 神谷彦二	屋根施工担当 神谷彦二	屋根施工・災害対策担当 神谷彦二 石原史也	屋根施工・災害対策担当 神谷彦二 石原史也
篠田裕重 杉浦英行	篠田裕重 杉浦英行	篠田裕重 杉浦英行	篠田裕重 杉浦英行						
神谷環光 (篠田泰宏H27.4まで)	神谷環光 神谷晋	神谷環光 神谷晋	神谷環光 神谷晋	石原順二 杉浦達雄	石原順二 杉浦達雄	杉浦達雄 片山幸一 (杉浦達雄R3.8まで)	片山幸一 片山幸一 岩月輝也	片山幸一 岩月輝也	片山幸一 岩月輝也

組合概要

令和5年10月現在

- 組合員数 19社
- 出資金 1億8129万円
- 敷地。建物面積 敷地面積 23,401 m²
建物面積・事務所:鉄筋コンクリート造2階 648 m²(延床面積)
・シャモット工場:2,493 m²(建物面積)
- シャモット工場能力 ·第1工場:144t/日 ·第2工場:200t/日
- 職員 ·事務所 男3名、女2名 ·シャモット工場 男3名